

丹後機業の動き

震災の影響幅広く、和装市況は依然先行き不透明で厳しい状況

- 日銀は、7月1日に発表した企業短期経済観測調査（短観）で、東日本大震災から3ヶ月を経て日本経済が最悪期を脱しつつあることを示した。しかし、原子力災害や電力不足の長期化、円高ドル安、原燃料価格の高騰に伴うエネルギーや食品の値上げなど不安要素は残っており、先行きに不透明さはぬぐい切れないとしている。
- 京滋の企業も業況判断指数（DI）が前期（3月）比9ポイント低下してマイナス20となり広範囲の業種で悪化した。特に和装は36ポイント低下してマイナス71と深刻で不需求期をむかえて市況はさらに冷え込むことが懸念される。
- 生糸価格については、需要と供給のバランスの中で高止まりで推移しているが、中国の優良繭産地の浙江、江蘇で日本向けの高格の生糸に使用される春繭が収繭されている。この春繭の買い上げ価格は天候異変等の影響で前年比約30%以上の値上がりとなり更なる生糸価格の上昇が予測される。
- 白生地は、震災前は糸価の高騰が続く中で、一部機業には早めに生地を手配したいとの思いから久々に多くの引き合いがみられた。震災直後も売約定があったことから、原料高・製品安で採算は厳しいが比較的堅調に推移していた。しかし、生活必需品でない和装品は自粛ムードが非常に強く残り、月日を迫うごとにブレーキが掛かり始め、生産調整や縮小に向けた動きとなっている。
- カーシートの製織機業では、サプライチェーン（部品供給網）のストップによる自動車の減産の影響が4月中旬には顕著に表れ、品種によっては未だに織機の停止や出荷停止の状況にある。しかし、自動車生産は急ピッチで回復する中でフル稼働への期待が高まっている。

（調査時期：平成23年6月中旬～下旬）

（調査機関：(公財)京都産業21 北部支援センター）

【ちりめん(白生地)】

- 平成23年1～6月の生産数量は、24.3万反で前年比96.1%（無地5.5万反・同96.0%、紋18.8万反・同96.1%）となった。月別では、1月と4月は前年並みであったが、その他の月で減少となっている。
- 財務省の貿易統計によると、平成23年5月現在の小幅白生地輸入数量（無地及び紋）は、15.7万反で前年比95.1%と減少している。このうち主たる輸入先である中国からは、11.7万反で前年比88.1%と大幅な減少となっている。
- 産地では仮需で動いたものの、小売販売店では不要不急品の自粛ムードの中で実需が減少している販売不振は、原料糸価の高止まりにより製造原価は上昇し、産地機業の採算は非常に厳しくなっている。こうした中で不需求期を前にフォーマル系の着尺素材から需要が読める振り袖素材へと舵を切り、リスクはあるが新柄を提案して9月からの仕切り直して臨むとの声も聞かれた。

【帯地】

- 平成23年（1～4月）の西陣帯地推定出荷数量は、24.1万本で前年比77.2%とかなり落ち込んだ。主力の袋帯が同94.6%と比較的減少は少ないものの、なごや帯は同76.2と大きく落ち込んでいる。
- 震災の影響は5月に入って顕著に表れてきており丹後全体では50%程度の稼働率と見られている。多くの機業で経待ち・緯待ちが1週間から10日ほどあり、京都直接の機業では3ヶ月止めてほしいとの要望に従い休機保証の中で織機が止まっている。一部企画物では、稼働率の良い機業もあるが、販売不振から価格を下げないと売れない状況の中で、緯糸に使用する縫い糸の色数を少なくしたり、安価な金銀糸の糸使いに替えることでコストダウンを図ることから、越単価の減少へと繋がっている。

- 帯地の製織に必需品であるコンピュータージャカードは、導入から20年が経過する中で老朽化が進み、付属装置の調達難や修理費の増加は機業への負担を大きくしており、低賃賃化の中で更新も困難な状況にある。

【広幅織物】

- 服地は、秋・冬物シーズンは比較的順調であったが、シーズンの端境期と震災の影響が重なり大きく落ち込んでいる。また化合織においても原糸価格の高騰が続いており採算が合わない状況である。
- ネクタイについても、震災の影響が懸念されたが、入学・入社シーズンでもあり震災前と同様であった。しかし電力不足に伴う節電計画が打ち出され、スーパーカールビズの影響を受けて20～50%の減少と次の約定が取れない状況にある。その中で、一部機業ではあるが他の商品開発や新規事業に進出する動きがある。
- カーシートは、震災の影響をいち早く受けドビー機を中心に織機が止まった。その状況は現在も続いているが、ジャカード機搭載の織機では稼働状況が回復しつつあり、自動車生産の回復とともに生産予定の上向きが待たれている。しかし受注単価はさらに厳しくなっている。そのため単品の製織では継続が困難なため、お守り用生地・インテリア素材など複合生産へ移行している。

【小物】

- 風呂敷は、需要には大きな変化は見られず減少傾向は続いている。レーヨン風呂敷300番では、糸価の高騰の現状を先方に理解してもらえず、製品に転嫁できないため廃業する機業が現れた。
- 帯揚、衿等の和装小物は中国からの輸入が減少したことで良くなると期待したが、小物は量ができる中で多くを必要としないため市況は悪い。こうした中でショールや小物雑貨等の割合が増加している。